


視察報告書【1】

委員 会名	生活社会委員会	委員名	加藤 昭孝
視察 日時	平成23年7月26日（火）午後1時45分～午後3時45分		
視察 先・ 概要	兵庫県神崎郡福崎町 人口：約19,800人 面積：45.82km ² 特記事項：－		
視察 内容	福崎浄化センター		
選定 理由	今後、足助地区の下水処理施設に導入される「膜分離活性汚泥法」の参考とするため		
豊田 市の 現状 と課 題	<p>足助地区について、膜分離活性汚泥法を導入する利点として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 本浄化センターの用地条件に合った非常に小規模な施設である。 ② 施設配置上、周辺環境に配慮が可能である。 ③ 省スペースであるため、住民開放施設や将来的な用地使用について対応可能である。 ④ シンプルな処理フローで供用開始後の維持管理が容易である。 ⑤ 建設費、運営費のコスト面でも優位である。 <p>などの理由から、膜分離活性汚泥法が最も本地区の実情への適合性に優れている。また、凝集剤を添加することにより、高度処理（リン除去）への対応が容易であるため、本法を導入することとしている。</p>		
視察 概要	 <p>平成4年度に下水道全体計画が作成され、平成16年度公共下水道の供用が始まった。平成14年度「膜分離活性汚泥（膜ろ過）法」で認可変更を行う。その理由として①瀬戸内総量規制が厳しくなること②敷地面積縮小、建設コスト縮減③従来のオキシデーションディッチ法より安定した処理水質が期待できる、などがあげられた。事業計画概要は、①目標年次、平成33年度②処理人口は17,300人③処理面積、669ha④最大能力 12,600m³/日④総事業費 210億円（うち浄化センター事業費 70億円）。膜ろ過法のメリットは①機械類が少なく管理が容易である②バルキングによる処理水悪化がなく管理がしやすい③SSの流出がなく大腸菌、ウイルスまで除去でき安全④短い滞留時間で硝化・脱窒・燐除去ができ高能力⑤反応槽が高濃度で汚泥濃縮槽がなく省力化が可能⑥処理水は臭気の発生がなく安心して再利用が可能。デメリットは①膜の交換が必要（10年使用）②膜の薬品洗浄が必要③洗浄用の空気が必要で電力が必要③微細目スクリーンによる夾雑物除去④膜の管理能力が必要。今後の展望として、この膜ろ過法が採用される処理場として①放流先に厳しい水質条件が課せられている②環境への影響から塩素消毒でき</p>		

	ない③十分な敷地面積がない、があげられた。実際に現地を調査してみて、施設自体に臭気がないのに驚く。また、処理水も透明でありもちろん臭いもなく、思わず飲んでしまいそうなほど。膜ユニットは4000枚で1ユニットで、膜カートリッジは一枚1万円程度。
評価とその理由	このような施設は今までに見たことがなく、環境に与える影響も少ないようなので、当市においてもぜひ採用していただきたい施設、方式である。ただ、まだ稼働して間もないので、今後の維持管理費にどの程度かかるのか不確かな部分はある。しかし、敷地面積が少なく環境への影響が少ないこの方式は今回の足助地区への導入は妥当であると考える。

視察報告書【2】

委員会名	生活社会委員会	委員名	加藤 昭孝
視察日時	平成23年7月27日（水）午前10時～午前11時30分		
視察先・概要	大阪府高槻市 人口：約357,000人 面積：105.31km ² 特記事項：中核市		
視察内容	犯罪のないまちづくり（子どもの安全・安心施策）		
選定理由	本市の犯罪のないまちづくり施策の参考とするため		
豊田市の現状と課題	<p>本年度の重点目標として第3次防犯活動行動計画の推進を掲げており具体的に下記の項目について実施していくこととしている。</p> <p>① 防犯緊急プロジェクト(2010)の検証</p> <p>② 犯罪弱者対策の推進 犯罪発生情報等の提供、地域安全指導員による巡回、主要市営駐輪場及び周辺の徒歩巡回</p> <p>③ 自主防犯活動団体への支援 自主防犯活動団体研修会、地域防犯リーダー養成講座、フォローアップ講座の開催</p> <p>④ 犯罪多発地区における取組の推進 深夜青色防犯パトロール、推進強化地区での青色防犯パトロールの実施</p> <p>⑤ 防犯意識の向上 緊急メールとよたの登録促進、出前講座・防犯診断の推進、防犯キャンペーンの実施</p> <p>⑥ 警察との連携強化 警察力強化に係る要望・調整等、警察への巡回パトロール強化依頼、防犯施策に係る情報共有と連携</p>		
視察概要	  <p>高槻市では、安全なまちづくり事業として①スーパー防犯灯の設置②子ども見守り放送③啓発グッズなどを行っている。①は、阪急高槻市駅周辺での犯罪（ひったくり）が激増したことによりH16年度に「ひ</p>		

	<p>「つたくり抑止パイロット地区」に指定され、H17年度に高槻警察署と市が共同にて設置したもので、警察署が親機1基、4基を市が設置した。それ以後38%減少していることを見れば、一定の効果があると判断する。②は、「防災行政無線」の拡声器を使って子どもに対する声掛けをH18年4月から開始したもので、当初は苦情も多く聞かれたが、教育委員会、警察署、防犯協議会などと協力、放送時間短縮などを行いながら継続実施してきた。③は、あらゆる媒体を活用し地域への意識づけ、浸透を図ってきた。H20年度からは「空き巣防犯啓発」「青色防犯パトロール」など子どもの見守り以外にも事業を開始している。その他、警察署の連携については、事業の実施に当たり支援・指導などを行ってもらったりしている。今後は、青パトのような現場での啓発活動やハード面としての防犯環境の整備が必要である。</p>
評価とその理由	<p>スーパー防犯灯は、抑止力に期待がかかっている。主導は警察署が行っており、行政はその支援に回っているという感じがする。防災行政無線を使っている点は評価できる。日ごろから機材の取り扱いに慣れていないといざという時に役立たない。また、拡声器での声掛けは、市民に対しての啓蒙活動の一環として役立つであろう。</p>

視察報告書【3】

委員会名	生活社会委員会	委員名	加藤 昭孝
視察日時	平成23年7月28日(木) 午前9時00分～午前10時30分		
視察先・概要	京都府綾部市 人口：約38,000人 面積：347.11km ² 特記事項：－		
視察内容	定住サポート事業		
選定理由	本市の中山間地域の過疎・定住対策の参考とするため		
豊田市の現状と課題	<p>本年度の重点目標として中山間地域の過疎・定住対策の推進を掲げており具体的に下記の項目について実施していくこととしている。</p> <p>① 空き家情報バンクの運用と充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バンクの利用促進に向けたPRの実施 ・定住委員等設置の動きに合わせた地域への事業啓発、新たな空き家の提供促進 ・定住コーディネーター事業、農地バンクとの連携 ・宅建協会との連絡調整 <p>② 「若者プロジェクト」の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の円滑な関係づくり、生産の拡大と販売経路の開拓、モデル事業期間終了後(平成24年3月)における若者の自立・定住に向けた支援 ・モデル事業の今後の展開に向けての検討 <p>③ 地域特性を活かした過疎・定住施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旭ビジョンの策定及び過疎定住対策実施計画の策定 など(旭支所) ・里山くらし体験館の活用、2戸2戸作戦の推進 など(足助支所) ・帰農者滞在施設の活用による定住促進 など(稲武支所) ・モデル地区(遊屋町)での定住サポート組織の立上げと水平展開 など(小原支所) ・(仮)しもやま住んでみりん連絡会の設立と活動基盤の整備 など(下山支所) 		

<p>視察概要</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>定住促進に取り組み始めた背景には、「過疎・高齢化の進行」「空き家の増加」などがあげられる。全国的には、インターネットの普及や田舎暮らしが注目されてきている。この双方を結びつけるため、H13年度からは「里山ネットあやべ」が立ち上げられたが、思うような成果が得られず、H20年5月「あやべ定住サポート総合窓口」が設置された。担当は定住促進課であり、その業務は①空き家の発掘②空き家情報の整理と公開③空き家の現地案内④空き家見学ツアーの実施（以上、空き家関連）⑤自治会ルールの整理・収集・アナウンス・提供⑥定住決定者の紹介⑦定住サポート隊の結成（地域活動支援）⑧就農相談窓口との連携⑨市内農業者との連携⑩農業の現状説明（就農支援）⑪市内や近隣市の求人案内⑫就労関係機関との連携（就職支援）などがあげられる。「総合窓口業務」としては、「空き家発掘」「空き家紹介」「集落活動の支援」「就農支援」「就職支援」を行ってきており、H20年度からH22年度までに世帯数で48世帯（117人）の定住実績がある。今後は、①空き家流動化促進事業②UIターン者住宅取得等資金融資斡旋制度③UIターン者定住支援住宅整備事業④空き家発掘事業費（空き家発掘隊員）⑤空き家物件の仲介制度などを進めていく方針である。</p>
<p>評価とその理由</p>	<p>この事業の良いところは「総合窓口を設置」して、ユーザーの期待に答えている点であろう。いわゆるワンストップサービスを行うことで、様々な角度からユーザーの求めるものをその場で確認できるため、ユーザーをたらいまわしにせず、的確なアドバイスや支援が行える体制にある。ワンストップサービスの成功事例と考える。</p>